

各 位

平成 15年 4月 17日

会 社 名	富士通コンポーネント株式会社
コード番号	6719
問合せ先	取締役総務部長 望月 晴夫 TEL (03) 5449 - 7000
当社の親会社	富士通株式会社
代表者名	代表取締役社長 秋草 直之
コード番号	6702
東証、大証、名証各市場1部	

## 業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績の動向等を踏まえ、平成 14年 10月 29日の中間決算発表時に公表した業績予想を下記のとおり修正します。

### 記

#### 1. 15年 3月期連結通期業績予想数値の修正(平成 14年 4月 1日 ~ 平成 15年 3月 31日)

(単位:百万円、%)

	売上高	経常利益	当期純利益
前回発表予想(A) (平成 14年 10月 29日 発表)	43,000	△ 3,820	△ 4,230
今回修正予想(B)	42,571	△ 4,485	△ 5,360
増減額(B-A)	△ 429	△ 665	△ 1,130
増減率	△ 1.0	-	-
前期(平成14年 3月期)実績	46,204	△ 7,920	△ 11,382

#### 2. 15年 3月期通期業績予想数値の修正(平成 14年 4月 1日 ~ 平成 15年 3月 31日)

(単位:百万円、%)

	売上高	経常利益	当期純利益
前回発表予想(A) (平成 14年 10月 29日 発表)	38,000	△ 1,820	△ 7,530
今回修正予想(B)	37,916	△ 2,047	△ 7,761
増減額(B-A)	△ 84	△ 227	△ 231
増減率	△ 0.2	-	-
前期(平成14年 3月期)実績	16,621	△ 1,932	△ 1,952

### 3. 理由

当社グループは、売上高の急激な回復が見込めないことを前提に益転化の諸施策を図ってまいりました。年初の計画をほぼ達成いたし、下記のような急激な損益改善を達成することが確実となりました。

富士通コンポーネントグループが一丸となった成果の表れと考えております。

今後もグループ全体の意識改革を推進いたし、さらなる生産性向上を図るとともに高付加価値製品へシフトして、来期は完全な黒字化を計画して取り組んでおります。

業績の概要は以下のとおりであります。

(単位：百万円)

	平成 15 年 3 月期見込					平成 16 年 3 月期計画
	上期実績	第 3 四半期	第 4 四半期	下期見込	年間見込	
売上高	20,598	10,995	10,978	21,973	42,571	45,000
経常利益	3,917	701	133	568	4,485	650
当期純利益	4,227	1,146	13	1,133	5,360	600

#### [ 事業再生のプロセス ]

##### 1. 海外販売体制の成長市場・成長商品への特化

アジア / 中国を強化

中国市場を重視し、拠点を上海に移動。販売人員の増員

米国、欧州を大幅縮小

米国：デザイン・インとグローバルマーケティングに集中、アジア市場との連携強化

欧州：自動車リレー増加対応とパワーリレー拡販へ資源をシフト

##### 2. 製造拠点の改革

海外製造子会社のFUJITSU COMPONENT (MALAYSIA) SDN.BHD、高見澤（常州）電子有限公司（中国）の利益拡大

間接部門の効率化及び生産性向上で黒字化

##### 国内製造拠点のスリム化

生産革新運動（トヨタ生産方式導入）による生産性向上

棚卸資産の削減

2001年3月	2002年3月	2002年9月	2003年3月
188 億円	126 億円	106 億円	88 億円

(100 億円削減)

##### 不要不動産の売却

遊休資産である栃木工場跡地（烏山）の売却

##### 設備投資の効率化

	2001年3月期	2002年3月期	2003年3月期
設備投資	49 億円	21 億円	17 億円
減価償却費	36 億円	34 億円	27 億円
差引	13 億円	13 億円	10 億円

##### 資産効率改善及び売掛債権流動化による有利子負債の削減

	2002年9月	2003年3月	2004年3月
有利子負債残高	346 億円	294 億円	282 億円

参考) 人員の推移

	2001年3月	2002年3月	2002年9月	2003年3月
国内	2,100名	1,687名	1,411名	1,330名
海外	5,089名	3,588名	3,585名	2,905名
計	7,189名	5,275名	4,996名	4,235名

[C. S. M(カスタマー・サティスファクション・マネジメント)の強化]

<目的>

コンポーネント事業として開発・製造・品質保証組織が顧客に密着し、顧客ニーズをきめ細かく収集しながらスピーディな新製品開発へと結びつけていく。

これにより、付加価値の高い製品へと製品編成をシフトしていきたい。

<今後の商品戦略>

◆ブロードバンドネットワーク市場対応コンポーネントの開発

(基幹通信インフラを含むインターネットバックボーン、イントラネット、LAN、SAN及びサーバ類、デジタル家電に至るネットワーク構成カスタム部品をターゲット)

○ 高速／大容量信号処理コネクタ(カスタム、部品)の展開

世界標準規格となった当社マイクロギガコネクタ(3.2ギガビット／秒)をサーバを主体とした情報ネットワーク機器向けに拡販(高付加価値コネクタ主体)。

○ スイッチング技術の応用

既に市場で認知されているサーバコンソールスイッチ(当社SERVISシリーズ)を更に拡充、又機能アップにより広域監視を可能とする商品展開を行う。